



中村ロータリークラブ

例会記録 (2013～2014)

会 長/大 塚 和 助

幹 事/稲 田 玲 子

会報委員長/門 田 勝 利

創 立/昭和38年10月2日

例会日/水曜日 12:30～13:30

例会場/新ロイヤルホテル四万十

事務所/四万十市中村小姓町46番地 中村商工会館2F

TEL 0880-35-4551 FAX 0880-35-4553

●ホームページ <http://www.nakamura-rc.com/>

週報 No.2322

第2453回 平成25年9月13日(晴れ)

本日のプログラム: ガバナー杯野球大会前夜祭

9月18日のプログラム: 野外例会 (トンボ公園駐車場・楷の木除幕式)

9月25日のプログラム: 50周年実行委員会

【会長挨拶】大塚会長

・まずは嬉しいお知らせです。本日より新しい会員が増えました。四万十市副市長、和賀正光様が入会されました。早速ですが入会式を行います。

・本日は、当クラブ創立50周年記念事業の一環として主管する「ガバナー杯野球大会」の前夜祭です。関ガバナー、中平市長、森本代表幹事様始め、たくさんの野球チームの皆様にご参加いただきました。また、ゲストに元阪急ブレーブスの山沖之彦様をお招きしています。山沖様には後ほどスピーチをお願いします。

明日から2日間、怪我のないように、大いに親睦を深めていただきますようお願いいたします。

【幹事報告】 稲田幹事

・来週、18日の例会はトンボ公園駐車場となっています。「楷の木」記念例会となっていますのでよろしくお願いします。

【新会員入会式】 紹介者 白木一嘉会員

氏名: 和賀 正光 1972年10月1日生れ

勤務先: 四万十市役所

役職: 副市長

学歴: 東京大学 部卒業



【ごあいさつ】

こんなにたくさんの皆様の前で入会式に驚いています。何にも分かりませんが、皆様よりご指導を賜りながら、頑張っていきますのでよろしくお願いいたします。



【本日のプログラム】 ゲストスピーチ 山沖之彦様（元阪急ブレーブス投手）



「私の野球人生」

「私の野球人生」と言う事で、自分の経験してきた野球について話をさせていただきます。

私は黒潮町、昔の大方の入野の出身です。中学校では背が高かったのでバスケットボール部に所属していましたが、練習がきつくて2年生の時に野球部に移りました。それが野球との初めての出会いです。ですから、本当に野球が好きでこの道に入ったわけではありません。しかし、その後、中村高校で本当に野球が好きな人達との出会いが私の人生を変えました。コーチには「俺はグラウンドでお前たちを人間と思わない。」と言われ、厳しい練習をさせてもらいました。今であれば、すぐ出場停止になるような痛い思いもしました。高校入学当時は甲子園に出るなんて思いもしませんでした。私は百姓の長男でしたのですばらしい人生はサラリーマンになって有給をとり農家をするのだと思っていました。ところが、甲子園をめざしていたキャプテン、副キャプテンとの出会い、監督、コーチ等の熱い指導。さらに、夏の伝統校である土佐高校との敗戦での悔し泣きにより、気持ちに変化が起きました。春の甲子園に運よく出場。そして準優勝となりました。抽選会するとき「九州と北海道ならなんとかかなる」と思っていたくらいです。覚えているのが夕食後のミーティングで「ぶざまな試合だけは止めよう、負けても一杯やろう」という話がありました。その後、監督・コーチによれば「肘が折れようが、肩が痛かろうが、4番を三振にとれ。そうすれば勝てる」と言われ、投げ抜き、春の甲子園で決勝に進み準優勝となりました。しかし、どうしても行きたかった夏の甲子園には1回戦で負けて行くことができず、監督とコーチが大阪の中村高校校友会に頭をボーズにして誤りにいったのを覚えています。

高校を卒業してから、プロの道というのもあったのですが、当時中村でプロでメシ食った人を知りませんでしたので大学に行く事にしました。その時、熱烈に誘ってくれたのが阪急でした。授業中呼び出されて、阪急のスカウトに「最後に聞く、

もし巨人が指名したらどうするんだ」と聞かれました。民放2局のテレビしか映らない大方町では、テレビでの放映は巨人戦しかなく、他の球団は知りませんでした。そこで、素直だったのも手伝って「分かりません」と答えてしまいました。そして、スカウトの人に「お前のような根性ではどこに行っても通用しない。」と言われ、こちらも「僕が大学に言き、どんな良い選手になっても阪急だけは行きません。」といったのですが、最終的には阪急にお世話になりました。ただ、ドラフトの3順目の時、巨人からお誘いがあったのですが断りました。

大学では、手を抜くことを覚えました。大学生は、手をぬいても抑えられるんです。一生懸命やっている選手は中心選手しかいないので、ある程度、力を抜いて投げ、肘を直していきました。大学入学当時、400勝投手の金田正一さんに出会う機会がありました。スポーツサウナに行っていたら、あの方に「ランニング好きか」と尋ねられて、素直に「いいえ、嫌いです」と答えたところ「そしたら、好きになれ」と言われ「はい、分かりました。」と素直に答えたのを覚えています。大学4年のとき、四国銀行に内定が決まっていたのですが、ドラフト1位で阪急に指名されました。当時、四国銀行頭取は阪急後援会長だったので阪急で野球をやらしてもらいました。プロに入って、大変感心した記憶があります。山田さんの記録がかかった試合、8回、3対2、ワンアウト1塁の場面です。相手は左バッター。山田さんはその左バッターを抑えると、次はホームラン以外は点数は入らないにもかかわらず4球のフォアボールです。なぜ勝負しないのか聞きました。すると、俺は左バッター抑えたのだから、俺の仕事ではない。との返事でした。その時、プロってそんなに凄いなと思いました。

最後に、野球というのは見るものでは無いと思います。未だに、見ていても面白くありません。しかし、もう野球をやれる体はありません。肩を痛めたもので、どうしても投げれない。

皆さん、明日から最後の戦いだと思って、精一杯頑張ってください。私も遠くから応援しています。